

運営にどう活かされているか伺う。

**答** 新型コロナウイルス感染症は、市民の暮らしを一変させ、行政として日々刻々と変わる状況に対応しながら、市民の命と暮らしを守る判断を常に求められてきた。市として、国や県の動向を注視しながら、状況を見極め、機会を捉えた要望を

経済を後押しする「取り組みが適切に展開できたものと考えている。今後も、これらの教訓を活かし、市民の声をしっかりと聴きながら、あらゆる行政課題に全力で取り組んでまいりたいと考えている。

**自由民主党**

**吉川市議員団**

**松崎 誠**



**問** ①防災への備えとしてラジオ放送等の整備を考えると。②第一排水区で新たな貯留施設整備の必要性は。③子どもの貧困の連鎖を断ち切るため市の取り組みは。④三輪野江地区の産業系まちづくり地域について、三郷市との協議、今後の事業スケジュールの遅延、課題等はないのか。⑤吉川駅北口ロータリー改修の駅前空間創出になる基本的考え方は。⑥タフシーチケット対象者の引き下げ、対象地域の拡大、自主返納された方への対応は。

**答** ①引き続き多様な情報発信の充実に努める。②算定された結果により貯留施設等必要な対策を検討する。③次期計画策定に向け重要な課題として支援していく。④事業の本格的な着手に向けた検討をしていく。また、大きな遅延や課題等は無いと考えている。⑤誰もが安全で利用しやすい駅前広場にするため、バリアのない歩行空間と安全に走行できる空間を創出する考え。⑥検討委員会における検証の結果、事業の目的に照らし妥当との見解が示され、現行の事業内容で進めていく。

**日本共産党**

**吉川市議員団**

**遠藤 義法**



**問** 市民は、感染人数だけでなく感染したとき、症状に応じた宿泊療養・自宅療養などの情報を求めている。保健所設置市の越谷市などとの情報量が違いすぎる。草加保健所管内でも情報が共有できる体制整備が必要ではないか。

**答** 在宅療養の方への食糧支援を行うなど、県の情報を得て連携、実施している。今後も組織の違いを踏まえて連携を密にしていく。

**問** 吉川駅北口から県道川藤野田線までの治水対策として、流出解析を行っている。その結果として必要

川駅北口の治水対策は長年の懸案、昨年秋季より中川堤防木売く高久間の堤防の1.5mの高上げ工事がまもなく終了する、共保雨水ポンプ場の増強について江戸川河川事務所と協議への期待は。③公共交通を補つ移動支援に取り組む自治会などへの支援を行うとあるが具体的には。④公共空間に街頭防犯カメラを設

れ協議に期待が持てる。③移動支援車両の貸出し、運営経費の一部補助を行う。④吉川駅前を初め公共空間・公園へ設置、通学路への設置は研究する。⑤文化芸術の推進計画を策定し支援を含め取り組む。⑥令和4年度は下流から上流へ約118mの排水路改修と路線測量を予定。

なポンプ増強とともに、貯留施設の整備も並行して検討するのか。

**答** ポンプ増強ですべて排水できるのか検証している。結果が出て必要なら、調整池もつくる必要があると考えている。

**問** 市民や公共交通事業者、国の関係者、有識者の方々の集まりをもって意見を聞くとしているが、具体的テーマは何か。誰ひとり取り残さない交通網整備の考えは。

**答** 地域ごとの具体的な施策について意見をいただく。行政がやるべき公共の部分と、地域の方々が主体として動いて支え合う交通のあり方の2本立てをしっかりと考えていく。